

本ニュースリリースは、アドビ システムズ 株式会社と日本アイ・ビー・エム株式会社との共同発表です。重複して配信される場合がございますが、あらかじめご了承ください。



アドビ システムズ 株式会社  
日本アイ・ビー・エム株式会社

## アドビ システムズと日本 IBM PDF とドキュメントサービスを中核とした エンタープライズ・ソリューションで協業

**e-Japan 構想を見据えた電子申請・電子財務文書ソリューションを提供**

**【2004 年 2 月 3 日】**

アドビ システムズ 株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：石井 幹、以下アドビ）と日本アイ・ビー・エム株式会社（本社：東京都港区、社長：大歳 卓麻、以下日本 IBM）は本日、アドビのドキュメントサービスと IBM® エンタープライズ・コンテンツ管理ミドルウェアを連携し、e-Japan 構想を見据えた企業向け、官庁向けエンタープライズ・ソリューションの提供で協力していくことを合意しました。販売促進の一環として、アドビと日本 IBM は共同で販売チャネルの開拓、ソリューション・セミナーなどをおこないます。この協業は、Adobe Systems Incorporated（以下 Adobe）とインターナショナル・ビジネス・マシーンス・コーポレーション（以下 IBM）が、2003 年 10 月に発表したワールド・ワイドでの提携に基づくものです。

ビジネス・データの共通言語として、XML（eXtensible Markup Language）の普及が進むにつれ、XML を利用した電子申請など電子フォームへの関心が高まってきました。アドビと日本 IBM の協業は、従来企業や自治体などが紙で処理していたプロセスの電子化・自動化を推進することが目的です。これにより、アドビは「Adobe® Form Server」をはじめとしたドキュメントサービスを、日本 IBM は「IBM DB2® Content Manager」などのエンタープライズ・コンテンツ管理ソリューションを拡張させていきます。

アドビと日本 IBM が提供するドキュメント・ソリューションは、企業内でのドキュメント処理に Adobe の技術と IBM のミドルウェア技術を利用します。さらにドキュメント形式（フォーマット）に PDF を採用し、文書への依存度が高い電子申請や電子財務文書などの業務プロセスを電子化します。具体的には、以下の 2 つのドキュメント・ソリューションを提供します。

### ■電子フォーム・ソリューション

アドビと日本 IBM は協業の第一弾として Adobe のソフトウェアである Adobe Form Server、Adobe Reader® などと IBM DB2 Content Manager を連携させた、銀行や保険などの金融業界と官公庁や自治体を主な対象とした電子フォーム・ソリューションを協力して本日より提供します。例えばローン申請業務は今まで紙で処理され手間のかかる作業でしたが、申請内容の取り込み、承認、検索、管理などの業務プロセス全体を電子化し、分散していた処理を統合することにより業務の効率化を実現します。また、オンラインでもオフラインでも申請プロセスを進めることができるため、複雑で記入に時間が掛かる申請書などのフォームを CD-ROM などで配布し、利用者（お客様、取引先、市民など）がオフラインの PC から記入し、インターネットを通じてオンラインで提出するようなプロセスなどに最適です。

このソリューションは、Adobe 製品と IBM 製品間のデータの受け渡しに汎用のデータ交換フォーマットである XML を採用しています。また、フォームに入力されたデータと

フォーム自身を、文書ファイルや画像データなど様々な種類のビジネス・コンテンツとともに一元管理できる業界初のソリューションとなります。

さらに、アドビは Form Server と Content Manager のコネクタも開発し Form Server にバンドルして「Adobe Form Server for IBM」として本年下半期から提供を開始する予定です。同製品は、アドビが Adobe マスター・ソリューション・リセラーを通じて販売を開始する予定です。価格はオープン・プライスです。IBM DB2 Content Manager は、IBM の直販営業もしくは IBM のビジネス・パートナーより販売いたします。

Adobe Form Server は、Web/XML/PDF に対応した電子フォームの作成から配布、回収、処理、格納、活用までを支援するソフトウェアです。IBM DB2 Content Manager は、文書や電子メールから、画像、オーディオ・ビデオ、Web コンテンツまで、あらゆる種類のビジネス・コンテンツを電子的に一元管理し、さまざまなデバイス（電子機器）からアクセスできるようにするミドルウェアです。

#### ■ SAP 帳票作成管理ソリューション

アドビと日本 IBM は、SAP® システムの ERP ソリューション（R3）の帳票（総勘定元帳、損益計算書など）を PDF 形式で作成し、IBM DB2 Content Manager で他のコンテンツと一元管理するソリューションを本日より提供いたします。このソリューションは、「Adobe OutputPak for mySAP.com」と「IBM DB2 CommonStore for SAP」、「IBM DB2 Content Manager」を関係させたもので、関係に必要なコネクタはアドビが本日より提供致します。なお、このソリューションの価格はオープン・プライスです。

これらのソリューションは、アドビが 2 月 12 日に開催する Adobe Intelligent Document® Platform DAY 2004 にてご紹介いたします。

上記以外にも、Adobe のエンタープライズ・サーバー製品群を、IBM の DB2 や WebSphere® Portal、Tivoli® などのミドルウェア製品群と関係させていく予定です。

日本アイ・ビー・エム社のビジネスパートナーである株式会社ティージー情報ネットワークの営業推進部長 荒 正仁氏は「弊社は、IBM ビジネスパートナーとしての「IBM DB2 CommonStore for SAP」、「IBM DB2 Content Manager」の構築ノウハウと、SAP 認定アライアンスパートナーとしての SAP R/3 の構築技術とを併せ持っております。本ソリューションにより、肥大化する SAP R/3 のデータと、PDF 化した帳票をアーカイブでき、関係するシステムを実現することが可能となります。親会社である東京ガスを初めとする基幹システム等を開発・構築・運用してきた豊富な実績を活かし、弊社は積極的にこのソリューションの提供を行って参ります」と述べています。

アドビ システムズ 株式会社のマスター・ソリューション・リセラーは以下のように述べています。

NEC ソフト株式会社の IT ソリューション事業部長 吉村 政幸氏は、「NEC ソフトは、この度のアドビ システムズ 株式会社と日本 IBM の提携を歓迎いたします。フォーム / ドキュメントには、企業における重要な資産が背景にあります。これらを連携させ効果的に管理し活用する仕組みは、企業ユーザにとって待ち望まれていたものです。Form Server と DB2 Content Manager におけるソリューションは、広く普及した PDF を企業資産と結び

つける手段とした点で、従来の参照するものという PDF をより一層活用することができると言えます。弊社は AMSR (Adobe Master Solution Resaller) として対応製品の販売だけでなく、これまでの企業システム構築の経験を活かし、PDF を多く活用している業種に対して、企業資産の効果的活用を目指すソリューションの展開を行って参ります。」と述べています。

東芝プラントシステム株式会社 (1月1日付で東芝エンジニアリング (株) と東芝プラント建設 (株) が合併) の執行役員 情報・制御システム事業部長 増山 秀夫氏は、「アドビシステムズ 株式会社と日本 IBM の協業による企業向けエンタープライズ・ソリューションの共同開発及び販売に対し歓迎の意向を表明いたします。当社は現在ワークフローソリューションにおける多数の実績を生かして、新たにエンタープライズ・ソリューションの販売、受託開発を推進しています。両社による製品販売は、企業におけるエンタープライズ・ソリューションの導入促進、市場の拡大につながるものと期待しています。今後も両社と密接な連携を図りながら、さまざまな分野へのソリューション展開を進めていく所存です」と述べています。

日立ソフトウェアエンジニアリング株式会社の開発事業部 第1開発本部 本部長 原田 淳氏は、「企業レベルでのコンテンツ管理のニーズがますます高まりつつある中、日立ソフトは、この度の両社の協業ビジネスの発表を歓迎致します。当社は、アドビシステムズのマスター・ソリューション・リセラーとして、また、日本 IBM のビジネスパートナーとして、両社との間でマーケティング及び技術面で緊密な協業関係を築きながら、各社のソフトウェアを販売、サポートしています。当社は、両社のプロダクトがシームレスに連携されることを強みとして、本ソリューションをユーザへ積極的に提案し、価値のあるシステムをワンストップにて提供して参ります」と述べています。

以上